経営の〝こつ〟を尋ねる　第29回

やりきる力。そして「気迫」で流れをつくる

平田 冨美子 氏
学校法人ひらた学園理事長
IWAD環境福祉専門学校学校長

筑紫女学院短大を卒業し、1967年にKBC九州朝日放送に入社。72年に広島へ。専業主婦を経て87年にIWAD婦人能力開発研究所を設立し、所長に就任。95年にIWAD女子技術学校に改組。2003年にIWAD環境福祉専門学校を開校。1947年1月5日生まれ、福岡県出身。

永続する企業、伸び続ける企業の経営には職人的な勘所がある。連載でインタビュアー牛来千鶴が、経営の〝こつ〟を尋ねる。

主婦たちの仕事づくりを！40歳で起業

「大変な中に居るのが好き」と、平田学校長。

短大卒業後、テレビ局に就職。イベントや企画の仕事に携わり、結婚後も家事や子育てと両立していたが、夫の転勤や2人目の子どもの出産を機に広島へ。専業主婦を経て再就職を試みたが、採用されなかったことが、40歳での起業のきっかけとなった。

広島には大企業や、その支店が数多くある。しかし、その社員の奥さんたちは、高学歴でありながら、生かされていない。

「40歳を超えた女性たちの仕事づくりを！」

そのためには、資格が必要だと考え、1987年にIWAD婦人能力開発研究所を設立。日本語や英語の講師養成講座を開講し、コピーライター、書技、英語の指導者などを多数輩出した。

「女性が元気になれば、まちが活気づく」

自身は福岡の出身だが、産まれたまちを「いいね」と思えるのは、両親や祖父母たちが頑張ってくれたおかげ。であれば、子どもたちの故郷である広島のまちをつくるのは、自分たちの役目だ。

「40歳は人生の半分。今までお世話になった分、これからは社会の役に立ちたい」

と志したのだという。

チャレンジしていかなければ続かない

93年に国内で初めて、女性を対象とした左官・造園・電気工事・壁装技能士養成講座を開講し、95年にIWAD女子技術学校に改組した。99年に国内初の園芸療法士コースを開設し、2003年にIWAD環境福祉専門学校に改組。09年には、中四国では初となる「農業ビジネスコース」（昼間課程2年制）を開設。そして来春、県内の専門学校で初の3年制リハビリテーション学科を設置する。

「同じものが続くと飽き飽きしてくるでしょ。学校も同じよ」

と、平田学校長。

「時代に即応し、チャレンジすると言う『意識を持つ』こと」

しかし、

「芯は変わらない！」

その言葉は、力強い。

チャレンジし続けることに、不安はないのか。また、女性ということでの障害はなかったのか…。

「実家は造り酒屋で、お金の流れや仕事の仕方は、見てきた」

家の中で女性はよく働くし、普段から、

「これからは女性の時代だ」

と語る父から、会社の話も聞いていた。また、68歳からぶどう園を始めた祖母の姿も目の当たりにし、

「働くのは、当然」

と思うのは自然だったという。

思いだけではなく、お金とのバランスも

「手に職を」

というキャッチコピーで注目された、女性を対象にした左官・造園・電気工事・壁装技能士養成講座は、これまで男性ばかりだった業界に、女性が踏み入る斬新なものだった。家庭にいる女性だからこその生活感や、色彩感覚など、その感性をまちに生かす新しいチャレンジ。

「本当にやる気あるんか」

「できるわけない」

と多くの人に言われたというが、本気だった。

銀行が女性には、お金を貸さない時代。夫にも反対されていたから、頼れない。これまでに自分で稼いだお金を全てつぎ込んだ。

「やりたいという思いは純粋だが、思いだけではやっていけない」

女性が1人で、社会との軋轢がありながらやっていくためには、指針をしっかりと持つことが大切。何のために仕事をするのか。

「揺れ動かないものを持たなければダメ」

そうでなければ、すぐに人のせいにしてしまう。そして、

「〝社会のため〟という思いと、お金のバランスも必要」

と、平田学校長。

いいことをしているからOKということは通用しない。思いだけでなく、勉強したり人に教わるなどして自分を磨くこと。

「何度も挫折感を味わい、周りの人の励ましもあって乗り越えてきた」

という、平田学校長の言葉には説得力がある。04年、第1回男女共同参画社会「女性のチャレンジ支援大賞（内閣官房長官賞）」を受賞する。

プラス思考を「意識する」

新たな挑戦にはリスクも伴う。振り返れば、経営者として、いろいろと苦労があった。しかし、

「明日どうしよう、と思っても、明日まで動く」

と、きっぱり。

窮地の時は、何のためにやるのか、原点に戻り、

「プラス思考を意識する」

「絶対、諦めない！」

事業計画についても、その通りに進まないことが常だが、

「それに沿って『やる力』が大事」

多くの人が〝言うだけ〟だが、1000人中1人くらいは、本当に、やる。それほど、実行は難しいということだ。

「気迫を持っていないと、流れはつくれない」

と語る平田学校長からは、まさに、気迫を感じる。

その根底にあるのは、

「守らなければならないものは『学生』」

という強い思い。多くの学生と向き合ってきた教育者としての信念を、インタビューを通して感じた。

年齢を超え、さまざまな人の能力を引き出す

来春開講するリハビリテーション学科は、

「前からやりたかったこと」

だという。

大きな投資も必要だったが、それよりも、つくることは、さらに大変だった。先生を探すことから始まり、許認可を取るには至難した。しかし、広島に残れる人材の育成は、すなわち、まちの活性となる。

「やりたい」

「やるべき」

「やるしかない」

と思いが募り、現実化した。

それは、これまでやってきた「介護福祉士」や「園芸療法士」の養成にも関連する。

自分たちにもできることがある、高齢者にも役目がある、ということを感じてもらい、

「常に一生懸命生きる」

という気持ちを大切にする介護や園芸療法の考え方は、リハビリテーション学科開講に馳せる思いにも通じているからだ。

IWADは、「I」＝Institute（学校）、「W」＝Whole（さまざまな）、「A」＝Ability（能力）、「D」＝Development（引き出す）という意。

年齢を超え、さまざまな人の能力を引き出すIWADの理念に込められた平田学校長の思いが、そこに詰まっている。

「必ず、誰だって、自分が幸せになりたいという思いはある」

でも、

「1人では変われないからこそ、環境が大事」

と、平田学校長。

好きな言葉は、

「知行合一」

知ることと行うことは一体である。本当の「知」は実践を伴わなければならない。だから、

「行動しないとダメ。行動することによって、知を得るのだから」

常にチャレンジし続ける、平田学校長らしい言葉だ。

〈インタビュー・記事〉牛来（ごらい） 千鶴（ちづる）
ソアラサービス代表取締役社長。広島最大のシェアオフィス「ソアラビジネスポート」を運営。「広島に〝あったらいいな〟をカタチに」を理念に掲げ、地場企業とのコラボ商品の開発や創業支援など、地域を元気にするプロジェクトを推進している。
【主な公職】広島県総合計画審議会委員、広島市産業振興センター理事、中小企業基盤整備機構 経営支援アドバイザーほか。